

令和3年度 スポーツトレーニング教育研究センター事業報告書

スポーツトレーニング教育研究センター長 山本 正嘉

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. アスリートドックプロジェクト

本学の様々なスポーツ種目、および子供からシニアまでの幅広い年代の多様な競技種目のアスリートを対象として体力や技術の測定・評価を行い、それをフィードバックすることで競技力向上の支援を行う「アスリートドックプロジェクト」を実施した。今年度は特に、本学の学生アスリートが自分自身で測定・評価・トレーニング処方を行い、競技力を自らの手で向上させていくためのシステムについて検討し、多くの成果を上げることが出来た。また、それらの成果を事例報告として3編、年次報告書に公表した。

2. 子供の体力向上プロジェクト（Exseed（子供貯筋）プロジェクト）

昨年度開発した、学校教育の中で実施可能な児童生徒の体力を増進するための運動プログラム「Exseed（子供貯筋）プログラム」を本センターの研究協力校を中心とした地元市内の学校にて実施した。また、動画サイトや放送局のスマートフォン用アプリで配信するなど普及活動も進めており、県外においても活用が進みつつある。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関することを除く）プロジェクト

該当なし。

2. 研究プロジェクト

① アスリートドックプロジェクト

- ・本学の競技選手（野球、ヨット、自転車競技、サッカー、バスケットボール、柔道、水泳、カヌー、ボートなど）を対象とした研究を実施し、測定結果を顧問教員へフィードバックした。（主担当：山本・藤田・高井）
- ・高校生の競技選手（柔道と自転車競技）を対象とした研究と実践を行った。（主担当：藤田・山本）
- ・中学生選手を対象とした研究と実践として、ジュニア柔道選手を対象とした研究と実践のために昨年度も実施した測定を行い、いままでの測定結果をまとめた論文が武道学研究に受理された。（主担当：藤田）
- ・アスリート・登山者の低酸素トレーニング法の検討と実践については、新型コロナウイルスの影響で研究成果は無かった。（主担当：山本）

② 学校現場で活用できる体力向上を促す運動プログラムの開発

- ・小学生および中学生を対象とした研究を Exseed プロジェクトとして、教育機関やイベントで指導者を派遣して運動指導を行った。また、Exseed という名称とロゴを鹿児島放送と共同で商標登録することが決まった。

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト

- ① 鹿児島県教育委員会と連携して、スポーツ指導者の再研修のための「スポーツリフレッシュセミナー」をオンラインにより2日間にわたり開催した。（主担当：藤田）
- ② 鹿児島国体でのコンディショニングサポート対策（主担当：藤田）

4. その他

- ① スポーツカウンセリング室を運営した（主担当：山本）

*上記事業に関する報告の詳細は『スポーツトレーニング科学』23巻（1-117頁）として刊行

Ⅲ. 決算報告

1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	250 千円	カウンセリング室運営費（学生アルバイト）
物件費	千円	
その他	千円	
計	250 千円	

2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	千円	
物件費	2,062 千円	
その他	1,210 千円	消耗品、保守点検費等
計	3,272 千円	

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	12 千円	研究協力校関連
物件費	18 千円	リフレッシュセミナー関連
その他	814 千円	研究協力校担当教員旅費、センター刊行物運送費等
計	844 千円	

4. その他

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	千円	
物件費	千円	
その他	82 千円	小荷物運送費等
計	82 千円	

Ⅳ. その他

1. 発刊物

『スポーツトレーニング科学』第 23 巻の刊行（主担当：山本、令和 4 年 3 月）

『トレセンニューズレター』第 26 号の発行（主担当：藤田、令和 3 年 10 月）

2. 開催会議状況

本センターの協力校等連絡会議の開催（主担当：山本、令和 3 年 12 月）

3. 広報活動

学内共同利用施設であるため、学外への広報活動は行っていない。

4. センター利用促進策の成果

特記事項なし。

5. その他

特記事項なし。